



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の池田です。

今月の集落支援だよりでは、百万遍や町の食文化、私の専門である文化人類学の視点から見た「伝統」の捉え方を紹介します。



地域おこし協力隊 集落支援担当  
いけだ じゅん 池田 潤 隊員

## 町内の「百万遍」

6月号では、西会津と私の故郷、島根県出雲地方の文化の共通点について紹介しました。秋葉さん・愛宕さん、歳の神や氷川神社、大山祇命の信仰に関し書きましたが、それ以外にも町内の各集落で受け継がれている「地域文化」と呼ばれるものには、さまざまなものがあります。

例えば、2月に「百万遍」を実施される集落もあるかと思えます。今年2月上旬に、群岡・屋敷集落からの誘いを受け、私も百万遍を体験しました。この百万遍は「なんまいだ」と何回も唱えながら、長さが5尺以上はある大きな数珠を10人ほどの人数で回していくものですが、かつては町内各地の集落にて受け継がれていたこと、また大きな数珠を各集落が共同管理されていたことに驚きました。この百万遍に準ずる集落ぐらゐでの行事は私の地元にはもう残っておらず、唯一、あゝるお寺にて同様の行事が2月



屋敷集落での百万遍の様子

のほぼ同じ時期に行われている状態でした。そのお寺での行事は「修二会」の一環として平安時代から続いているものなぞ、もしかしたら西会津各地での百万遍も、平安の昔から続けられているものなのかもかもしれません。

## 西会津の食文化

ここまでは主に生活と密着した「信仰」に関し書きましたが、「文化」には信仰以外にも、食なども含まれます。今年の正月、「こづゆ」をもらい食べました。「1食分で少ないから気にしないで」ともらったのですが、実際食べ

てみると、ホタテの貝柱やタケノコ、野菜がたっぷり入っていて意外にボリュームがあったことを思い出します。西会津は海から離れた場所ですが、こづゆのホタテ、身欠きニシンなど、この地で海の幸をおいしくいただくという先人の想いを感じました。



会津の郷土料理 こづゆ

## 「伝統」とは

文化人類学の世界では、「伝統」はかつての姿そのままではなく、時代の変化に合わせて変わることが普通に発生し、それは悪いこととは限らない」ということが言われています。例えば、たたら製鉄はかつて女人禁制でしたが、現在は観光対応や研修など

で、女性もたたら製鉄で活躍しています。

このことを日本各地の地域づくりの場で考えてみると、例えば「地域の運動会や防災訓練が、役員の負担が大き過ぎて両方の維持ができない」という問題に活用ができるかもしれません。昔から行われている「伝統ある運動会」を、

「実は変えて良いもの」と捉えれば、種目を「防災頭巾早かぶり競争」など防災訓練と融合させ、地域の行事負担を減らすことも考えられそうです。

またお祭りも、現在日本各地における各集落・地域にてその維持が困難になっていきます。しかしお祭りの起源が、秋の収穫祭を通じた農村社会の結び付きの維持だと考えると、現代社会において、これまでの形にこだわるあまり関わられる人が減少するのは、本来末転倒かもしれません。

例えば、平日開催から休日開催とし参加者を確保することも考えられ、このように西会津の今に即した変容も、今後考えられるかもしれません。